



# ましみずの里

天童市立高掬小学校  
学校だより No.2  
令和5年 4月17日  
校長 齊藤厚志

## 「創立記念日—今年度 創立 150 周年—」 ～久しぶりに全児童で校歌合唱～

4月15日（先週の土曜日）が創立記念日でした。本日の朝、久しぶりに全児童が体育館に集まり、2日遅れで本校の誕生日をお祝いしました。私からは、創立当時の高掬地区の方々の思いや願いについて話をしました。その後、校歌を全校生で歌いましたが、その姿に、私は思わず感動してしまいました。学校本来の子供たちの姿がやっと戻ってきたように感じたからです。これからも、基本的な新型コロナウイルス感染症対策は継続しながら、子供たちにとって必要なことは、みんなで知恵を出し合い工夫して実施していきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

### 『創立記念の話』

みなさん、おはようございます。今日は、本当に久しぶりに、全校生が体育館に集まりました。先週の土曜日、4月15日が、高掬小学校の誕生日、創立記念の日です。2日遅れになりますが、みんなで高掬小学校の誕生日をお祝いしたいと思います。

さて、私はこの学校に来たばかりなので、高掬小学校のことを少し調べてみました。この高掬小学校ができたのは「明治」という時代です。「明治」「大正」「昭和」「平成」、そして今は「令和」ですね。新任式の歓迎の言葉で、6年生の代表児童も教えてくれましたが、高掬地区にある願行寺というお寺の一角に、「第八番学校」として開校しました。天童市では最も早く、山形県内でも8番目にできた学校です。

武士の時代が終わり、「明治」という新しい世の中になって、日本の国を強くて豊かで、世界に開かれた国にするためには、学校をつくって、どの子供にも充実した教育をしなければならぬ、という考えが生まれました。

すると、当時の高掬地区の方々は、どこの地域よりも早く、高掬の子供たちに最高の教育を受けさせたくて、当時37名もの優秀な先生方を山形県内・県外から集めてきたのだそうです。つまり、高掬地区の方々は、高掬の子供たちのことを思い、「生きるうえで土台となる力をまずはしっかりと身につけさせたい。」そして、「自分の力で生活でき、夢を実現させ、社会や人の役に立てる人間に育ててほしい」という願いが、大変強かったのだらうと思います。

その思いや願いは、150年たった今でも変わりはありません。高掬小学校の大きな目標をみなさんは知っていますか。「自ら学び、ともに伸びる～夢に向かうくらしづくり～」です。高掬小学校の児童381名と先生方33名が、この目標に向かい、心を一つにして、毎日の学習や様々な活動に自ら考えて取り組み、力をつけ、ともに成長していける、そのような学校をみんなで創っていきましょう。

また、みなさんは一人一人違ってきます。同じ人間など、この世にはいません。お互いの違いや良さを認め合い、弱さを支え合いながら、ともに学び合い、高め合える仲間になりましょう。そして、みなさんも先生方も、みんなが笑顔で楽しく生活できる高掬小学校を、みんなで創っていきましょう。

これで、創立記念の話は終わりますが、10月17日に改めて創立150周年記念式典を盛大に行う予定ですので、それに向けての準備なども6年生を中心によく願います。最後まで話を聞いてくれて、ありがとうございました。